

第4学年3組 社会科学学習指導案

指導者 及川 洋平

1 単元名 のこしたいもの、つたえたいもの

2 単元について

本単元は学習指導要領の内容(5)「地域の人々の生活について、見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」のイ「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」を扱う。ここでは、古くからの文化財や年中行事の内容やいわれ、地域の人々がそれらを大切に保存し継承するための取組などを調べ、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いや保存・継承するための工夫や努力を考えられるようにしたい。

これまでに児童は、3学年の学習「わたしのまち みんなのまち」で学校のまわりの絵地図を作り、千葉市を調査し白地図にまとめ、地域の様子は場所によって違いがあることを学習している。打瀬地区や千葉市の特色ある地形や土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子などを学習し、総合的な学習においても「街たんけん」を行ってきた。児童は地理的視点から打瀬の町の良さや特徴について理解できている。

そこで本単元では、身近な地域打瀬の町を歴史的視点からとらえていきたいと考える。地域の教材を扱うのは、児童が打瀬の町であれば、自分との関係性を理解でき、必要性を感じることができると考えたからである。しかし、打瀬の町ベイタウンの歴史は15年と浅く、本校美浜打瀬小学校も創立6周年を迎えたばかりである。学区内全ての住居がマンションで、古くから残されている建造物は全くない。約30年前までは海しかない場所であり、歴史としての教材が充分とはいえない。そこでまず地域を流れる「花見川をひらく」で千葉県発展につくした人々の願いや苦労、工事の様子を調べ、印旛沼や花見川の今後の発展を考え学習を進める。ここで歴史の学習の進め方を学び、それから打瀬の町の歴史を学ぶ本単元に入っていく。打瀬の町の歴史を調べ、これからの町づくりを考える経験を通して、子どもたちが打瀬の町に愛着を感じ、自分が暮らす地域を愛する心を育てていきたい。

学習内容としては、まず打瀬の町の現在と約60年前の写真を比較し、町の変化の理由を予想させる。次に町の変化で疑問に思ったことを発表して、その疑問点を3つの観点、「埋立てが始まる前までの歩み」「町ができるまでの歩み」「町ができてから今までの歩み」に分類する。そして、それぞれの内容を調べる順序や方法を児童自らが決め見通しを持つ。「埋立てが始まる前までの歩み」は、打瀬の町が海であったことを、「町ができるまでの歩み」はマリスタジアムの建築を、「町ができてから今までの歩み」はベイタウン祭りを中心に調べ学習を進めていく。調べる学習の最後には、調べたことから打瀬の町の今後の発展について話し合うこととする。さらに社会科としてのここまでの歴史学習をもとに、総合的な学習と関連させて、打瀬の町に暮らす人々の町の発展に対する思いを調べて、町のためにできることを考え、実践していく予定である。

本単元は、児童にとって歴史学習の最初であると考え。まずは歴史学習の進め方や意味をおさえることが大切である。打瀬の町に関わる人々の思いがあり、それを受けて苦労や努力によって様々な変化を遂げ、現在があり、さらにこれからどうなっていくのかを考えるということはこの学習を通して学んでもらいたい。その上で打瀬の町の歴史的な良さや特徴を理解して、自分たちが暮らす町を愛する気持ちを養っていきたい。

3、児童の実態調査（男子18名 女子19名 計37名）

10月24日実施

①打瀬の町が好きですか。

とても好き	どちらかという人喜欢	あまり好きではない	嫌い
27人（73%）	5人（14%）	4人（10%）	1人（3%）

②大人になっても打瀬の町に暮らしたいですか。

絶対暮らしたい	どちらかというとも暮らしたい	あまり暮らしたくない	別の場所でも暮らしたい
1人（3%）	13人（35%）	9人（25%）	14人（37%）

③育った場所はどこですか。

打瀬の町	千葉市内（打瀬の町は含まない）	千葉県内（千葉市内は含まない）	千葉県外
19人（52%）	4人（10%）	4人（10%）	7人（18%）

④生まれた場所はどこですか。

打瀬の町	千葉市内（打瀬の町は含まない）	千葉県内（千葉市内は含まない）	千葉県外
2人（5%）	4人（10%）	12人（33%）	19人（52%）

⑤一緒に暮らす家族の出身地はどこですか。（複数回答）

打瀬の町	千葉市内（打瀬の町は含まない）	千葉県内（千葉市内は含まない）	千葉県外
1人（1%）	3人（4%）	11人（15%）	60人（80%）

⑥家族の人は打瀬の町の歴史について話しをしてくれますか。

よく話してくれる	たまに話してくれる	あまり話してくれない	全く話してくれない
2名（5%）	9名（25%）	8名（21%）	18名（49%）

・昔は海だった ・空気が広がっていた ・埋立地だった ・学校の近くの駐車場は広場だった

⑦打瀬の町の良い所はどんなところですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい、きれい（9） ・施設[公園・公民館]が充実している（7） ・マンションが多い（6） ・お店が多い（4） ・人が優しい（4） ・安全（4） ・ベイタウン祭りがある（3） ・町並みが明るい（3） ・人がたくさん住んでいる（2） ・海が近い（2） ・地域の人がボランティアをしている（2） ・暮らしやすい（1） ・有名な場所[マリスタジアム・幕張メッセなど]がある（1）

⑧打瀬の町の改善した方がよい所はどんなところですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・マンションばかりが建っている（10） ・海や浜辺が汚い（8） ・路上駐車が多い（7） ・自然が少ない（6） ・地域の人と交流が少ない（6） ・子供のことを考えていない（4） ・一人暮らしができない（3） ・うるさい（1）
--

⑨打瀬の町が今後どんな町になってほしいですか。

調査中です

(考察)

児童の実態調査よりほとんどの子どもたちが打瀬の町が好きだと答えている。しかし、大人になってもこの町に暮らしたいと考えている児童は約40%という結果である。本学級の児童の半数が打瀬の町以外で過ごした期間が長く、9割以上が打瀬の町以外の場所で生まれている。保護者も千葉市内の出身者がわずかであり、8割が千葉県以外の出身者である。保護者も打瀬の町に対する歴史の認識はそれほど深くはなく、普段の生活の中で町の歴史について話す機会は少ない。そのため児童の打瀬の町に対する歴史認識はそれほど高くはなく、愛着心も弱いと感じられる。

児童の多くは、打瀬の町の良い所として、「新しい、きれい」や「公園や公民館などの施設が充実している」ことなどの町の構造をあげている。打瀬の町に暮らしている人々の良さや地域性といったことに気づいている子どももいるが、多いとは言えない。打瀬の町の改善した方がよい所では、「マンションばかり建っている」「海や海辺が汚い」など町の特徴でもあるものをあげている子どもが少なくなかった。3年生の学習で打瀬の地域の学習を行っているが、もう一度特徴について見直さなくていけないと考える。

社会科の学習に対しては、非常に意欲が高い。中学年で行く身近な地域の内容に関心を持ち、熱心に取り組んできた。4年生では、花見川終末処理場や新港クリーンエネルギーセンターなどを見学することで、実際に焼却されるごみの様子を見たり、処理場で働く人たちの話を聞いたりして学習できることが大きな喜びになっている。しかし地域や学校自体の歴史が浅く、打瀬の町の中に教材となるものが充分とは言えない。単元によっては、児童が身近に感じることができず、実感を伴った知識を得られなかったり、地域を愛する気持ちを感じられなかったりしている。これからの学習では、学習している内容が自分自身を取り巻く社会であることを実感して、自分が住む場所を愛せる人になるようにしたい。そのために歴史が浅い打瀬の地域でも、この地域の特徴となるものを取り上げ、児童にとって身近な題材を学習計画に取り入れる。最終的には打瀬の町のためにできることについても考えていく。

4、小単元の目標

- 打瀬の町に暮らす人々の生活を向上させるために努力してきたことを理解し、そうした歴史を持つ打瀬の町に対する誇りと愛情を持つ。
- 先人が生活を向上させてきたことを具体的に調べ、今と昔の暮らしの違いやこれからの打瀬の町について考える。

5、小単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	歴史を伝えるものに関心を持ち、実際に探したり調べたりするとともに、それらを大切にしようとし、地域に愛着を感じようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	地域の文化財や行事から、この地域の昔の人がどのようなことを願ってきたかを考えようとしている。
観察・資料活用の技能	地域の文化財や行事を調べ、わかったことや感じたり考えたりしたことを発表しようとしている。
社会的事象についての 知識・理解	地域には、文化財や行事など、よりよい暮らしを願う人々の思いがこめられたものが、今も大切に伝えようとしている。

6. 小単元の指導計画（8時間扱い）

<p>【千葉市の発展につくした人々『花見川を開く』】</p> <p>○印旛沼の今と昔の地図から印旛沼の変化に興味関心を持ち、学習計画を立てる。</p> <p>○昔の印旛沼と花見川の水害の様子を調べる。＜開発工事の前までの歩み＞</p> <p>○染谷源右衛門の工事への願いと工事の様子について調べる。＜開発工事完成までの歩み＞</p> <p>○花見川を開く計画とその後の開発について調べる。＜開発工事完成から今までの歩み＞</p> <p>○印旛沼や花見川の開発による生活の変化を調べる。＜印旛沼と花見川のこれからの歩み＞</p>	8 時間
--	---------



過程	主 な 学 習 活 動 と 内 容	時配
つ か む	<p>○打瀬の町のこれまでの歩みに興味関心を持ち、学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打瀬の町の昔と今の様子を写真から読み取り、比較する。 ・打瀬の町が今の姿に変化した理由を考える。 ・学習問題を立て、打瀬の町ができる前後に分け、疑問に思ったことを発表する。 	1 本時
	<p>○疑問に思ったことを観点ごとに分けて、これからの学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問に思ったことを3つの観点に分ける。 ・調べる方法について確認し、学習計画を立てる。 	1
調 べ る	<p>○打瀬の海を調べる。＜打瀬の海が埋め立てられる前までの歩み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔、漁を行っている舟（打瀬舟）の写真から、「打瀬」の地名の由来を知る。 ・打瀬舟と一般的な舟を比較したり、のりや貝の養殖、かに漁について調べたりする。 	3
	<p>○千葉マリスタジアムを調べる。＜打瀬の町ができるまでの歩み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋立地の移り変わりを写真から読み取り、千葉マリスタジアムの位置を確認する。 ・打瀬の町と海浜幕張駅周辺の写真から、幕張地域の土地利用を調べる。 ・千葉マリスタジアムで働く人のインタビューを聞き、移設の苦労や努力を調べる。 	
	<p>○ベイタウン祭を調べる。＜打瀬の町ができてから今までの歩み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子守神社祭りの子ども神輿の写真から、昔の祭りの様子を読み取る。 ・ベイタウン祭について知っていることを話し合う。 ・ベイタウン祭を運営する人々のインタビューを聞き、苦労や願いを調べる。 	
	<p>○調べたことを発表して、その内容を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの観点ごとに調べたことを発表する。 ・打瀬の町の移り変わりについて年表にまとめる。 	1
ま と め	<p>○打瀬の町が発展するためにできることを考える。＜打瀬の町のこれからの歩み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打瀬の町のために努力する人々による町の歩みについてまとめる。 ・打瀬の町の長所と短所について話し合う。 ・打瀬の町を発展させるために自分たちができることを話し合う。 	2



<p>総合的な学習と相関して【美浜打瀬小に歴史の部屋を作ろう】</p> <p>○打瀬の町の人たちに自分たちができることから、課題を決める。</p> <p>○グループごとに分かれ、課題について調べてまとめる。</p> <p>○グループごとに発表する。</p>
--

7、市教研の研究主題との関連

社会の形成者として主体的に判断し行動できる力を育てる社会科学習のあり方



本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画案より）

- ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ② 児童生徒に調べ方や学び方を習得させる指導と評価のあり方を明らかにする。
- ③ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ④ 児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ⑤ よりよい社会を築こうという意味を持って行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

本小単元では、①と⑤を重点的に考えた計画を立案した。

- ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

現在を生きる児童にとって過去に起こった出来事を学習することは、現在の様子を見学したり体験したりする学習に比べ、意欲を高めることに難しさを感じている。その原因は、自分自身との関係性が見出せず、歴史学習の必要性を感じることができないためではないかと考える。

そこで本小単元では、児童が暮らしている打瀬の町を教材として扱う。生活する地域の教材を取り上げることで、自分との関係性が見出すことができ、学習意欲が高められる。また、調べる段階でも実際に見学したり、話を聞いたりすることができるので、実感を伴った学習を進められると考える。学習意欲を高めることでより多角的に調べるようになり、打瀬の町の今後の発展についてより深く考えられることができるようになってもらいたい。

- ⑤ よりよい社会を築こうという意味を持って行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

本児童は、学習内容を理解する力は高いが、理解したことを生活に活かしていく力は十分とはいえない。ごみの学習を終えた後でも、ごみを減らそうと努力をしたり、ごみを出さないために物を大切にしようとしたりする姿勢はあまり見られなかった。実生活の中で学習した経験をいかしていこうという気持ちは弱いように感じる。

そこで本小単元では、打瀬の町について調べ終わった後、既習内容を活かして、町の今後の発展のためにできることを考える学習をまとめとした。自分が生活する地域打瀬の町について学習するので、考えたことも実践しやすいと考える。この学習を通して、打瀬の町が様々な立場の人たちの思いから成り立っていることに気づき、調べたことをもとに自分ができることを考え、打瀬の町のために努力することができるようになってもらいたい。

8. 本時の指導

(1) 本時の目標

- 写真の読み取りを通して、打瀬の町がどのように変化し、発展していったのか関心を持つことができる。（関心・意欲・態度）
- 打瀬の町の歩みについての学習問題を立て、調べる内容を考えることができる。（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開

種	学習内容と活動	指導上の留意点	資料
導 入 展 開	<ol style="list-style-type: none"> 約 60 年前の貝とりをする人たちや投網で漁をする人たちの写真から打瀬の町の昔の様子を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> 海が浅くて、奥に人がたくさんいる。 かごを背負った人たちがたくさんいる。 船に乗って、漁をしている。 今の打瀬の町の様子を写真で見て、気づいたことや知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> マンションがたくさん建っている。 新しい建物や施設がいっぱいある。 マリスタジアムや幕張メッセもある。 打瀬の町が新しい町に変わった理由を考えて、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 海を埋めて、埋立地をつくった。 貝や魚が採れなくなってしまった。 千葉市で住む場所が足りなくなってしまった。 学習問題を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○打瀬の町が昔は遠浅の海であり、あさり漁や投網漁を行っていることに気づかせる。 ○自分たちの今の生活と昔の様子を比較しながら考えさせる。 ○今の打瀬の町が新しい建物や施設が立ち並び、近くにはマリスタジアムや幕張メッセなどがあることに気づかせる。 ○海から変化した理由を児童が想起しやすいように、必要に応じて今と昔の写真に戻り、気づけるように助言する。 	貝とりをする人々・投網で漁をする人々の写真 現在の打瀬の町の写真
ま と め	<p style="text-align: center;">打瀬の町が、海から新しい町にどのように変わったのだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 打瀬の町ができた前後に分けて、ふしぎに思ったことを考えて、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <町ができる前> <ul style="list-style-type: none"> 海ではどのように漁業を行っていたのか。 どのように海から新しい町に変化したのか。 マリスタジアムはどうして造られたのか。 <町ができる後> <ul style="list-style-type: none"> ベイタウン祭はどのように始まったのか。 美浜打瀬小学校はどのように建てられたのか。 <その他> <ul style="list-style-type: none"> これから打瀬の町はどう変わっていくのか。 次時はふしぎに思ったことをもとに学習計画を立てること確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○打瀬の町で町開きが行われた 15 年前を町ができた前後の境界線とする。その上で、児童がふしぎに思ったことを想起しやすいように、マリスタジアム・ベイタウン祭り・美浜打瀬小学校の写真を町ができた前後で分類する。 ○ふしぎに思ったことを、グループごとに付箋に書き、町ができた前後で分類する。 	マリスタジアムの写真・ベイタウン祭りの写真・美浜打瀬小学校の写真